

47. 上 五 島

地 域	南松浦郡新魚目町曾根、仲知
交 通	九州商船 佐世保—上五島（小串港）
地形図	立串（1/50,000, 1/25,000）

赤岳 中通り島の新魚目町曾根郷の村里の背後の丘は、頂上までよく耕された段々畑で麦とさつまいもが交互に作られる。この畑の土は明るい赤褐色で、他の地域の畑土が褐色であるのと比べて人目を引く。赤岳の地名もうなづけよう。

この赤岳は、五島列島の他の火山、例えば福江島の鬼岳や火岳などと同じ玄武岩質の火山なのである。玄武岩は、他の火成岩に比べ鉄の含有量が多いため、風化すると、一般に赤味が強い土じょうとなる。

曾根の里の南西部は傾斜のゆるやかな、この付近でもっとも広い畑地となっている。この西の海岸は黒色の玄武岩に東支那海の波浪が白く砕ける荒磯である。この赤岳の山体の大部分は、この玄武岩溶岩流の上位に積み重なった火山灰～スコリアよりなる。この中には大小種々の火山弾が含まれている。火山活動は何回かにわたる溶岩の流出で始まった。こうして火山の土台ができてのち、爆発性の活動に移り、大きな火口の周りに火山弾やスコリアをまきちらしながら火山はしだいに成長し、高さ 150mほどの噴石丘を作った。北の方曾根の里へ向って傾く火口は今も地形にその名残りをとどめている。

火山活動が止むと、東支那海の荒波はどしどし浸食してゆく。白草の西の山腹は 100m を越える大きな海食崖になっていて、火山砕せつ物がゆるやかに弧を描きつつ西へ傾く様子が見られる。自然が



上五島新魚目町曾根赤岳付近のルートマップ

見せてくれる火山の断面で大そう珍しい。

弘法大師の足跡 中通島の新魚目町は北に細長くのびた面白い地形を示す。この町の北端に近い仲知の東側の海岸の大きな崖には白っぽい岩の間に長楕円形の青灰色の部分(point)が点在する。これが弘法大師のわらじ跡である。なるほど大きな「わらじ」の足跡を想像させられるのには感心する。立串から仲知へ向う小さな渡海船の中で、土地の人はこの「足跡」についての伝説を語ってくれた。

昔、この土地に大病がはやり、多くの人が倒れた。部落の人々の祈りが届いたものか一人の僧がこの地にあらわれ病む人々の家を巡

り歩いては読経して去った。彼の僧の姿が消えたとき、人々の病もいえた。そして気が付いてみると彼のわらじの跡は岩に残っていたという。土地の人々はこの僧を弘法大師と信じている。

新魚目町には第三系の堆積岩やせん緑岩を貫く花こう岩があちこちにみられる。その周辺部には捕獲岩（ゼノリス）がみられる。貫入してきた花こう岩マグマの温度が充分高ければ、とりこまれた岩片はとけてマグマに混じてしまう。またある程度温度が低ければ、捕獲岩片はほとんど溶けず、角ばったまま残る。後者の例は、先ほどのべた赤岳のふもと曾根の村里から約1km北方の海岸で見られる。

仲知の「弘法大師の足跡」は、上に述べたものの中に当り、捕獲岩片の角が溶け去って生じたものである。

地下のマグマの作用の面白い働きである。 (堀口承明)



五島層群の砂岩層に貫入する玄武岩岩脈
(五島有川町蛤浜西端)